

総合周産期母子医療センター 新生児科

平成30年5月



広島市民病院未熟児新生児センターは1979年8月に呼吸管理病床6床を含む病床数20床として開設され、今年で38年目を迎えます。2006年春、新棟8階に産科と新生児科がワンフロアとなった病棟が完成し、総合周産期母子医療センターの指定を受けました。

現在の病床数は33床でそのうちNICUは9床、GCUが24床となっています。入院数は年間350人程度で、極低出生体重児（超低出生体重児は年間20人程度）が2割程度を占めます。呼吸管理を必要とする児は年間80人前後です。広島地区で唯一未熟児センター専用の救急車が配備されており、24時間体制で新生児搬送を行っています。

超低出生体重児の集中管理はもちろん、あらゆる新生児期の疾患に対して小児外科や関係各科と連携をとりながら診療を行っています。小児科関連科（小児科、循環器小児科、神経小児科、小児外科）が充実しているのも当院の特徴です。また、産科新生児室での正常新生児の診察や退院後の健診、NICU退院後のフォローアップや予防接種外来などセンター以外でのケアにも取り組んでいます。センターでは医師のみでなく、看護師、理学療法士、臨床心理士など他職種との協働によるチーム医療を大切にしています。



当センターは、8名の医師が専属で診療にあたっており、周産期専門医4名、NCPR（新生児蘇生法）インストラクター4名を擁しています。

NCPRでは中国地方唯一のトレーニングサイトであり、また他施設との共同研究にも積極的に参加しています。新生児医療の指導医・後期研修医のチーム制で指導体制も整っており、新しく新生児医療を担う人材の育成にも力を入れています。

見学、研修、相談、質問、どうぞ気楽にお問い合わせ下さい！

主任部長 西村 裕（にしむらゆたか） E-mail warabi@city-hosp.naka.hiroshima.jp